

2026年7月5日

T.Kobayashi

千葉開府900年の年に・・・その Ⅰ

千葉の始まりを考えてみた

数年前から、県知事が先頭に立って「千葉開府900年」と囃し立てているが、一般県民はそれほどに踊ってはいなく、起爆剤的效果はあまり上がっていないように感じられる。

何故なら、900 年前に開かれた「千葉」は、現在の千葉市中央区のごく限られたエリアで、多くの県民・市民からすれば無関係な町だからである。私自身のことを言えば、50年以上千葉市民であるが、「千葉市中央区のごく限られたエリア」とは特別なつながりを全く持たずに過ごしてきた。おそらく、千葉県民・千葉市民のほとんどの人は同じではないかと思う。我が家から千葉へ行くな「東へ向かう」し、東京へ行くな「西へ向かう」という選択になり、多くの人が「千葉県民・千葉市民」という自覚が乏しく、「千葉開府900年」と言われて踊るほどの心持にはならないのは致し方ないのかもしれない。とは言っても、「地元のことをもう少し知りたい」と思って、少しばかり勉強したので話には付いて行けそうな気がしている。

平安時代後期の大治元年(1126年)、千葉常重が大椎(おおい:千葉市緑区)から亥鼻城に拠点を移して、「千葉」という政治経済の拠点ができたことで、開府900年と言われている。

城のある台地の先端が「亥」の方角(北北西・微北)に突き出していることから亥鼻城の名がついた。地図を見ると、葛城の山から延びる台地の先端が都川に突き出していることがよくわかる。

<Ⅰ> 地名の由来そして千葉氏の始まり

一般的には、「その土地を治めた人の名前をとって地名とする」という事例と、「その土地を治めた証に地名を人名にする」という事例が存在する。つまり、人名が先か、地名が先かということになる。

「千葉」の場合は後者で、古くからある千葉という土地に乗り込んで来た武士が、この地を治めるとともに「千葉」と名乗った。

平安時代初期の資料に残されている情報によれば、千葉国造(ちばのくにのみやつこ)・千葉郡(ちばこおり)がこの時代に存在していたようである。日本書紀等に、千葉国造の名前は「大私部(おおきさいべ)氏」と残されている。開化天皇の御子(日子坐王:ひこますのみこ)の末裔らしいが、人物の詳細を示す情報は少ないらしい。

万葉集に、防人の歌として大田部足人(おおたべのたりひと)が、755年(天平勝宝7年)に詠んだ望郷の歌が残されており、その中で「知波乃奴乃(千葉の野の)」という表現がされている。この時代に千葉(知波)と言う地名が存在していたことを示すものと言われている。

ちばののの このてかしはの ほほまれど あやにかなしみ おきてたかきぬ

(千葉の野) (児手柏) (薔のま) (愛) 高

桓武平氏の流れを汲む平常重が、この地に乗り込んで「千葉介」を名乗ったのが千葉氏の始まりとなった。千葉氏二代目の常胤は、六人の息子に自領を分け与えて、のちに「千葉六党(ちばりくとう)」と名乗って各地に影響力を広げていった。その影響範囲は、東北から九州にまで至るものだった。

●千葉さんの家系図調査 (千葉氏の誕生と千葉六党の流れ)

<http://www.l.u-netsurf.ne.jp/~TKOB/chibasan.pdf>

<2> 坂東八平氏

千葉氏の誕生の前に、関東一円に広がる武士の活躍があった。桓武平氏の流れて、高望王の子孫の中で関東に土着した豪族を「坂東八平氏」と呼んでいた。

一般的な整理としては、千葉氏・上総氏・三浦氏・土肥氏・秩父氏・大庭氏・梶原氏・長尾氏を指す。この他にも、関東一円には平氏の流れを汲まない武士団もあり、横山氏・猪俣氏・児玉氏・丹氏・西氏に平氏の村山氏・野與氏を加えた「武蔵七党」という武士団も存在し、弱肉強食・離合集散を重ねながら、次の時代への動きが進んでいた。

「鎌倉武家辞典」という本に出会い、そのあたりのことを整理して見た。

●鎌倉武家辞典から学ぶ（坂東八平氏から生まれたもの）

<http://www.l.u-netsurf.ne.jp/~TKOB/bandoh8.pdf>

<3> 千葉六党の広がり

源頼朝が伊豆で挙兵したが、平氏に敗れて安房に逃げるようになった。この時千葉氏は頼朝を助けて後の鎌倉幕府設立に貢献し、有力な御家人のポジションを得る。

千葉県や千葉市には、源氏とのつながりを示す数々の遺跡・遺構や伝承が残されている。

千葉一族の中核をなした「千葉六党（ちばりくとう）」から生まれた多くの人脈が、各地に広がっていき、新しい土地（地名）や新しい武士（人名）が生まれた。

●千葉氏をめぐる人々（鶴岡さんの話から千葉の姓を考えてみた）

<http://www.l.u-netsurf.ne.jp/~TKOB/chibasa2.pdf>

以上